



# 決算説明会資料

2021年3月期  
(第115期)

 日本特殊塗料株式会社



# 目次

1. 2021年3月期 決算の概要
2. 2022年3月期 通期業績予想の概要
3. 当社の事業概要
4. 今後の成長戦略

## <参考資料>

1. 会社概要
2. 主要な経営指標の推移

# 1. 2021年3月期 決算の概要

## (1) 2021年3月期 決算サマリー

### ① 連結損益計算書

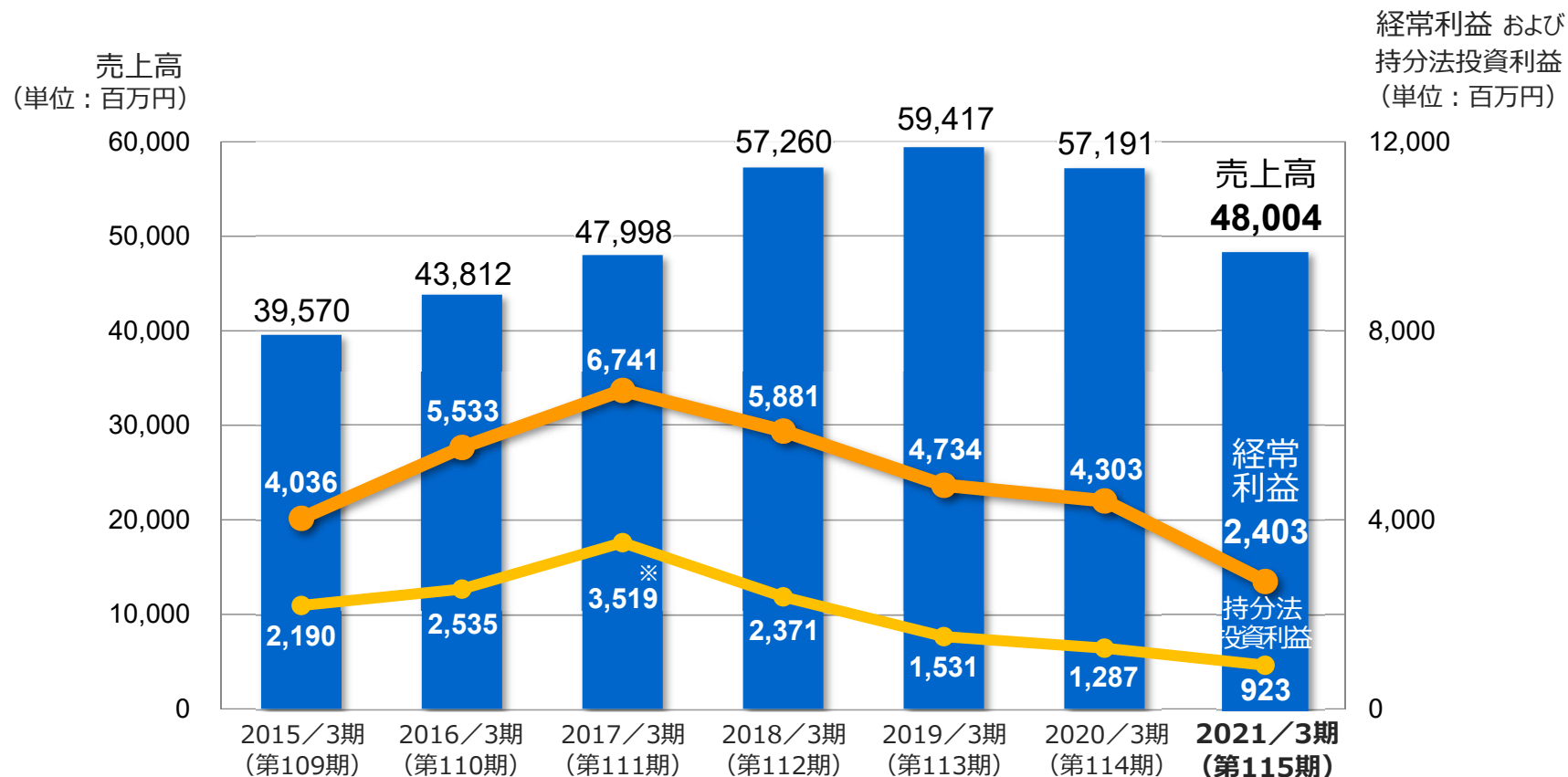
単位：百万円

	20/3月期		21/3月期		前期比	
	実績	構成比	実績	構成比	増減額	増減率
売上高	57,191	—	<b>48,004</b>	—	△9,186	△16.1%
売上原価	44,808	78.4	<b>38,263</b>	<b>79.7</b>	△6,545	△14.6%
販売費及び 一般管理費	9,554	16.7	<b>8,882</b>	<b>18.5</b>	△672	△7.0%
営業利益	2,827	4.9	<b>858</b>	<b>1.8</b>	△1,968	△69.6%
経常利益	4,303	7.5	<b>2,403</b>	<b>5.0</b>	△1,899	△44.1%
親会社株主に帰属 する当期純利益	2,318	4.1	<b>1,301</b>	<b>2.7</b>	△1,016	△43.9%
1株当たり 当期純利益	105.34円	—	<b>59.27円</b>	—	△46.07円	—

# 1. 2021年3月期 決算の概要

## (1) 2021年3月期 決算サマリー

### ② 連結業績の推移 (直近7期)



※2017/3期は特殊要因の影響あり (米国関連会社UGNで固定資産売却益960百万円を計上)

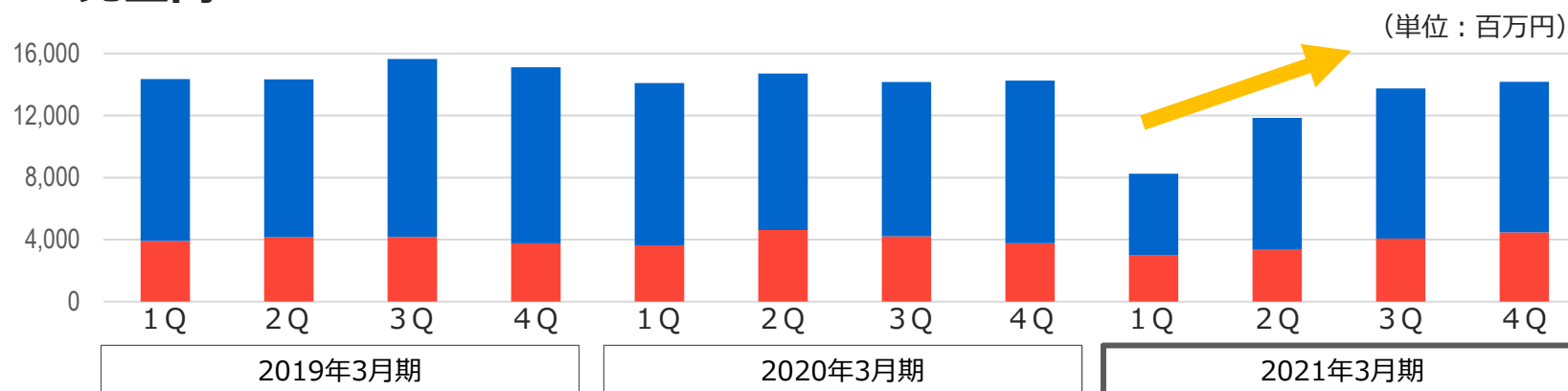
# 1. 2021年3月期 決算の概要

## (1) 2021年3月期 決算サマリー

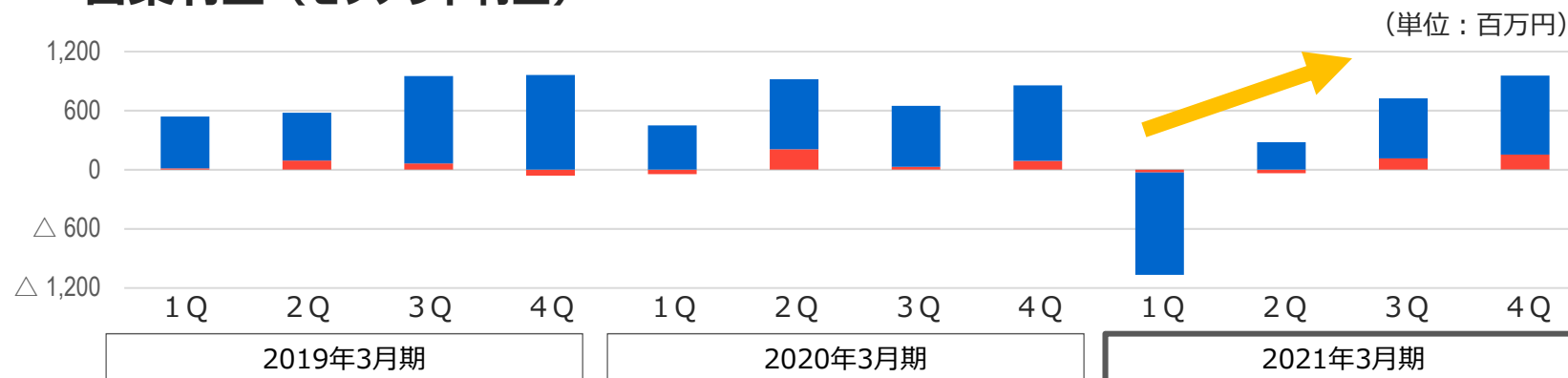
### ③ 連結業績の推移 (直近3期 四半期推移)

■ 自動車製品事業  
■ 塗料事業

#### ■ 売上高



#### ■ 営業利益 (セグメント利益)



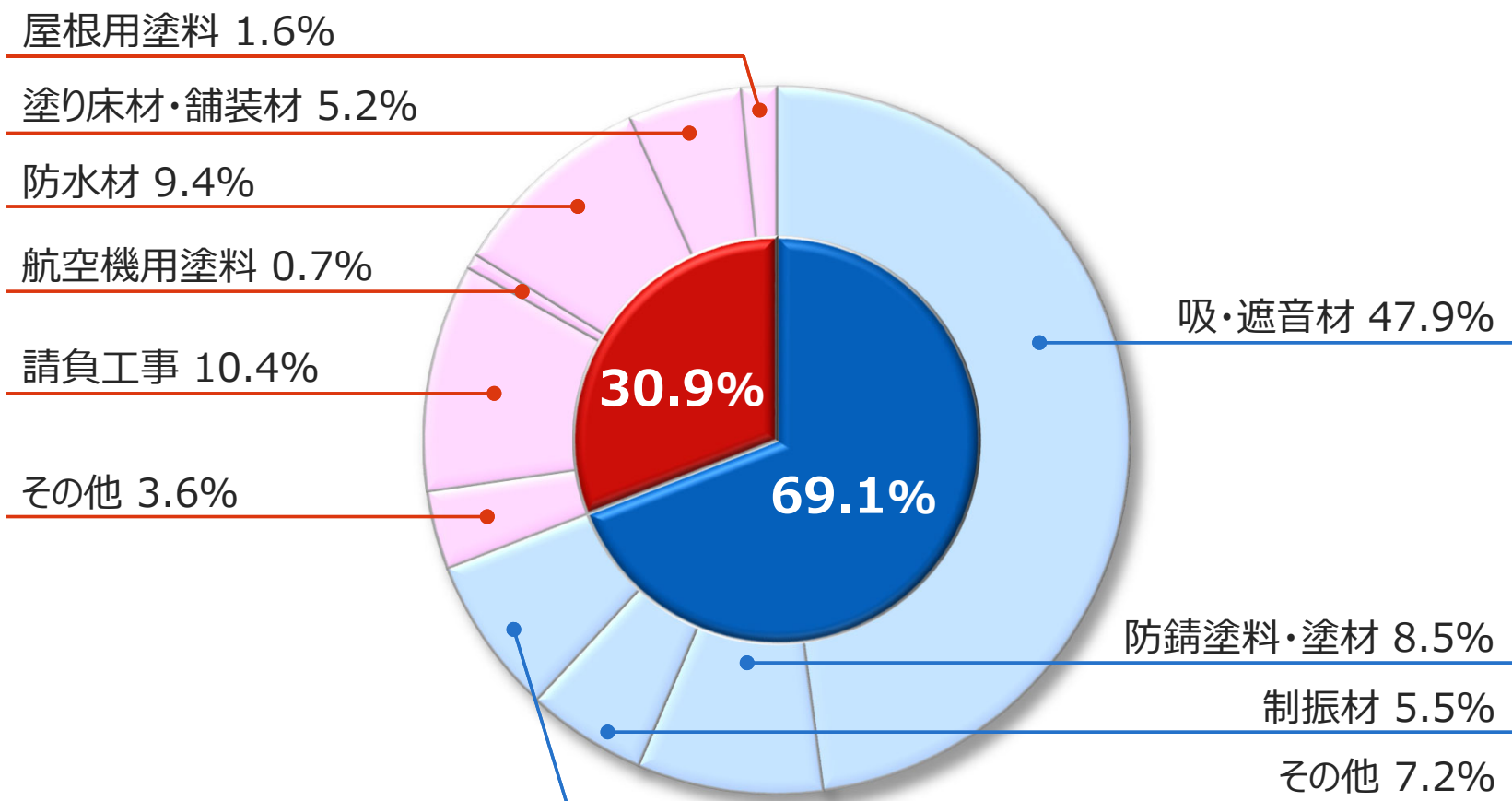
# 1. 2021年3月期 決算の概要

## (1) 2021年3月期 決算サマリー

### ④売上高構成比（セグメント / 主要製品別）

#### 塗料事業

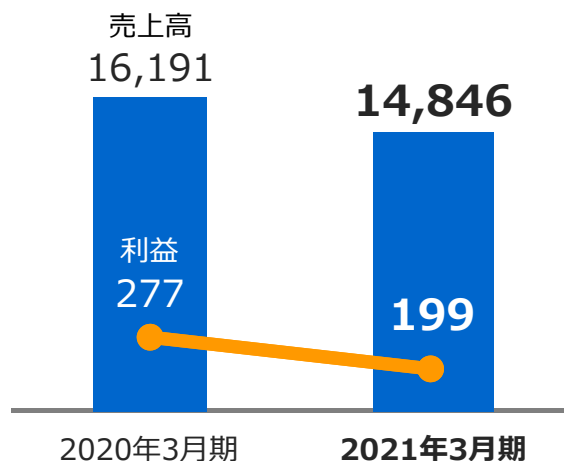
#### 自動車製品事業



# 1. 2021年3月期 決算の概要

## (2) セグメント別の状況

### ① 塗料関連事業



単位：百万円

	2020年 3月期	2021年 3月期	増減率
売上高	16,191	<b>14,846</b>	△8.3%
セグメント利益	277	<b>199</b>	△28.0%
(利益率)	(1.7%)	<b>(1.3%)</b>	

### 【売上高】

- ・塗料 前期比△3.7%  
防水材は前期並を維持  
他は屋根用、床用、工業用、  
航空機用いずれも低調
- ・工事関連 前期比大幅マイナス  
コロナ禍が続く中で、工事時期の  
変更・一時的見合わせの影響大

### 【セグメント利益】

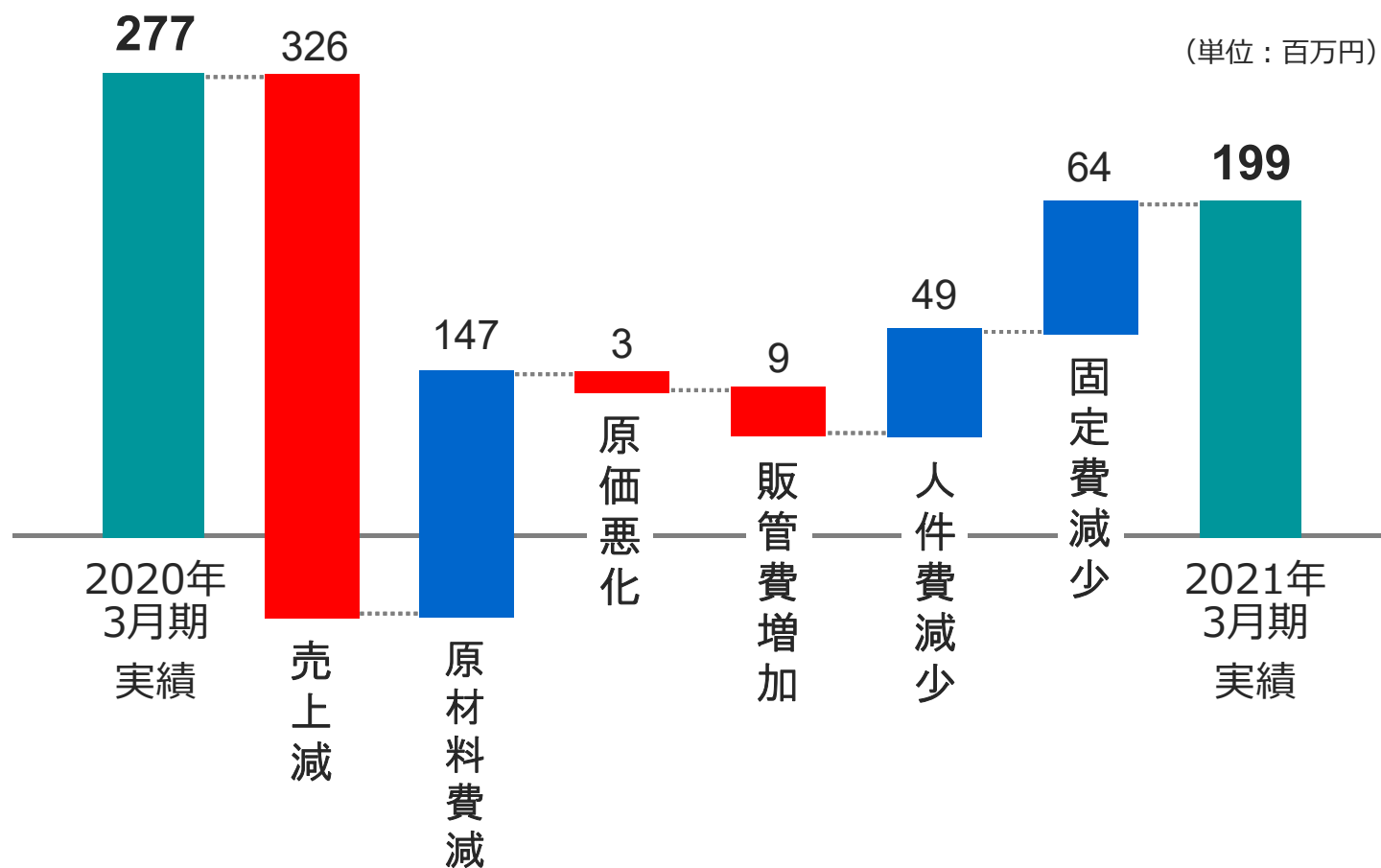
- ・原材料価格低下、固定費減少  
だが、売上高減少の影響大  
(要因分析は、次頁参照)

# 1. 2021年3月期 決算の概要

## (2) セグメント別の状況

### ① 塗料関連事業

#### 【利益増減要因分析】

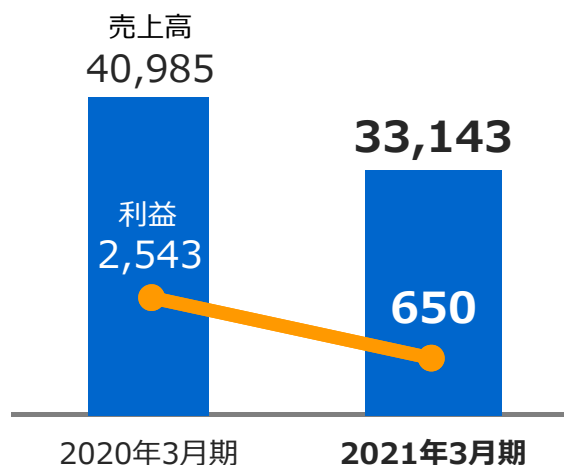




# 1. 2021年3月期 決算の概要

## (2) セグメント別の状況

### ②自動車製品関連事業



単位：百万円

	2020年 3月期	2021年 3月期	増減率
売上高	40,985	<b>33,143</b>	△19.1%
セグメント利益	2,543	<b>650</b>	△74.4%
(利益率)	(6.2%)	<b>(2.0%)</b>	

### 【売上高】

・吸・遮音材、防錆塗料・塗材  
制振材、金型等その他売上は  
いずれも前期比減

上期にWNAの工場が一時的  
稼働停止、コロナ禍影響でカー  
メーカーの生産台数減少  
(下期は回復傾向)

### 【セグメント利益】

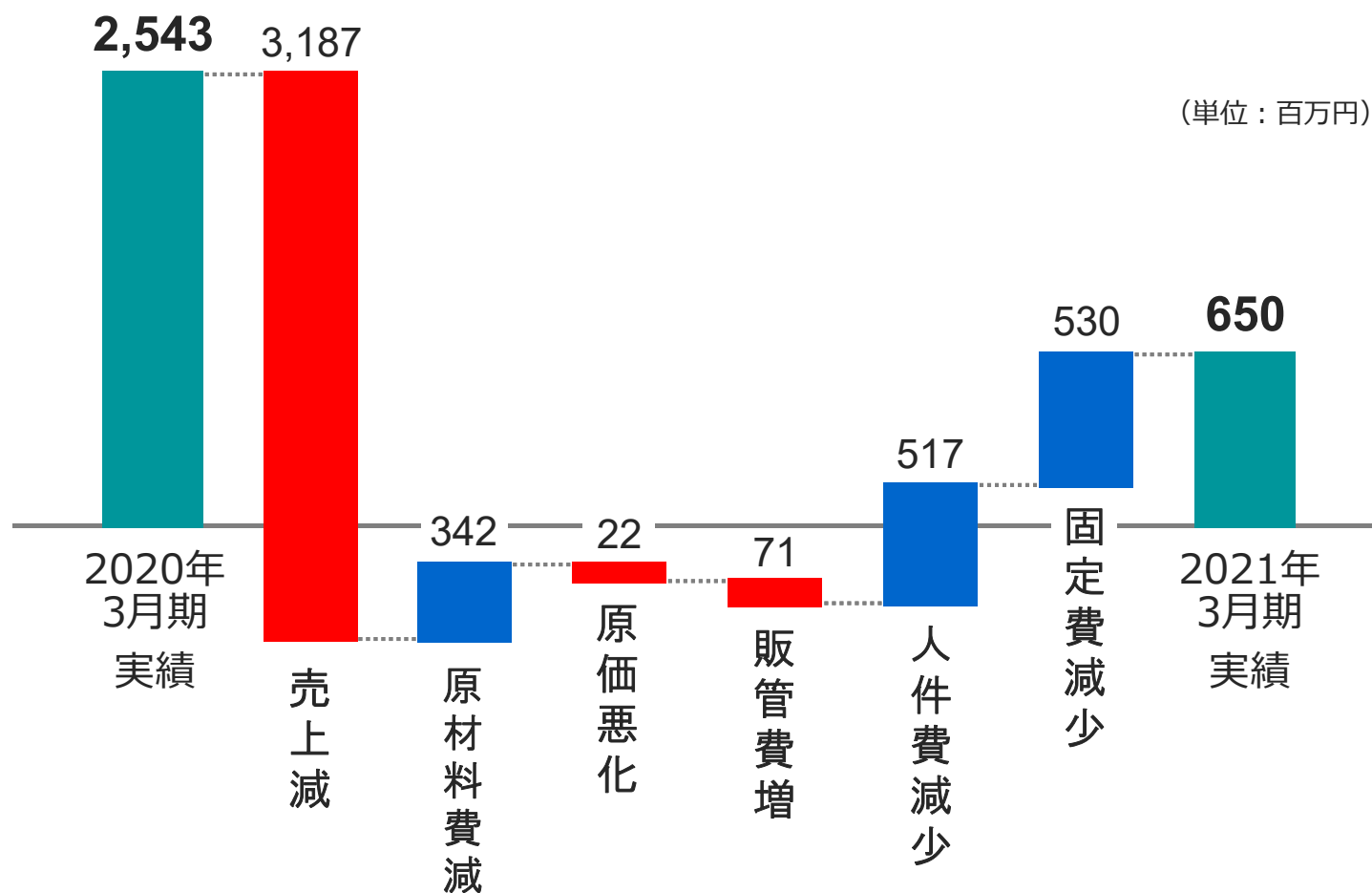
・原材料価格低下、固定費減少  
だが、売上高減少の影響大  
(要因分析は、次頁参照)

# 1. 2021年3月期 決算の概要

## (2) セグメント別の状況

### ②自動車製品関連事業

#### 【利益増減要因分析】



# 1. 2021年3月期 決算の概要

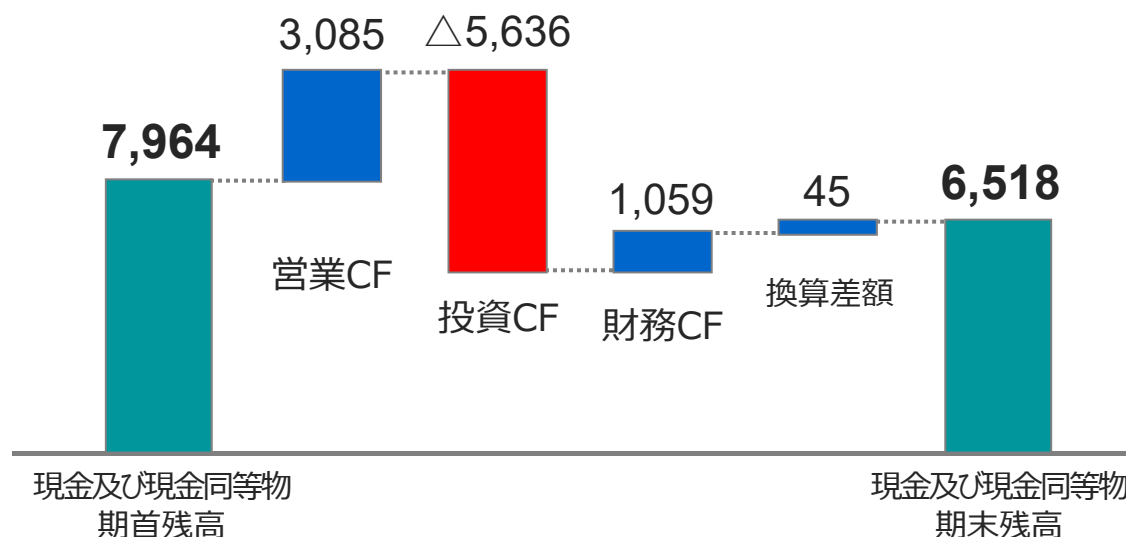
## (3) 連結貸借対照表

単位：百万円

	20/3月期		21/3月期		前期比
	実績	構成比	実績	構成比	増減額
流動資産	25,780	35.8	<b>25,414</b>	<b>33.7</b>	△365
固定資産	46,287	64.2	<b>50,087</b>	<b>66.3</b>	+3,800
有形固定資産	26,334	36.5	<b>27,018</b>	<b>35.8</b>	+684
無形固定資産	1,275	1.8	<b>1,244</b>	<b>1.6</b>	△30
投資その他の資産	18,677	25.9	<b>21,824</b>	<b>28.9</b>	+3,146
<b>資産合計</b>	<b>72,067</b>	<b>100.0</b>	<b>75,502</b>	<b>100.0</b>	+3,434
流動負債	17,647	24.5	<b>19,775</b>	<b>26.2</b>	+2,128
固定負債	9,358	13.0	<b>8,571</b>	<b>11.3</b>	△786
<b>負債合計</b>	<b>27,005</b>	<b>37.5</b>	<b>28,347</b>	<b>37.5</b>	+1,342
株主資本	37,845	52.5	<b>37,888</b>	<b>50.2</b>	+43
その他の包括利益累計額	3,104	4.3	<b>4,677</b>	<b>6.2</b>	+1,573
非支配株主持分	4,112	5.7	<b>4,588</b>	<b>6.1</b>	+475
<b>純資産合計</b>	<b>45,062</b>	<b>62.5</b>	<b>47,154</b>	<b>62.5</b>	+2,091

# 1. 2021年3月期 決算の概要

## (4) 連結キャッシュ・フロー計算書



単位：百万円

	20/3月期	21/3月期	前期比増減
現金及び現金同等物の期首残高	7,645	<b>7,964</b>	+319
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,188	<b>3,085</b>	$\Delta 4,103$
投資活動によるキャッシュ・フロー	$\Delta 4,726$	$\Delta 5,636$	$\Delta 912$
財務活動によるキャッシュ・フロー	$\Delta 2,073$	<b>+1,059</b>	+3,132
現金及び現金同等物に係る換算差額	$\Delta 69$	<b>+45</b>	+114
現金及び現金同等物の期末残高	7,964	<b>6,518</b>	$\Delta 1,446$

## 2. 2022年3月期 通期業績予想の概要

### (1) 2022年3月期 通期業績予想サマリー

単位：百万円

	21/3月期		22/3月期		前期比	
	実績	構成比	業績予想	構成比	増減額	増減率
売上高	48,004	—	<b>54,700</b>	—	+6,695	+13.9%
営業利益	858	1.8	<b>2,000</b>	<b>3.7</b>	+1,141	+132.9%
経常利益	2,403	5.0	<b>3,700</b>	<b>6.8</b>	+1,296	+53.9%
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,301	2.7	<b>2,400</b>	<b>4.4</b>	+1,098	+84.4%
1株当たり 当期純利益	59.27円	—	<b>110.57円</b>	—	+51.3円	—

※2022/3月期見込

持分法投資利益 約14億円（前期比 約60%増）  
 想定為替レート 1ドル=108円

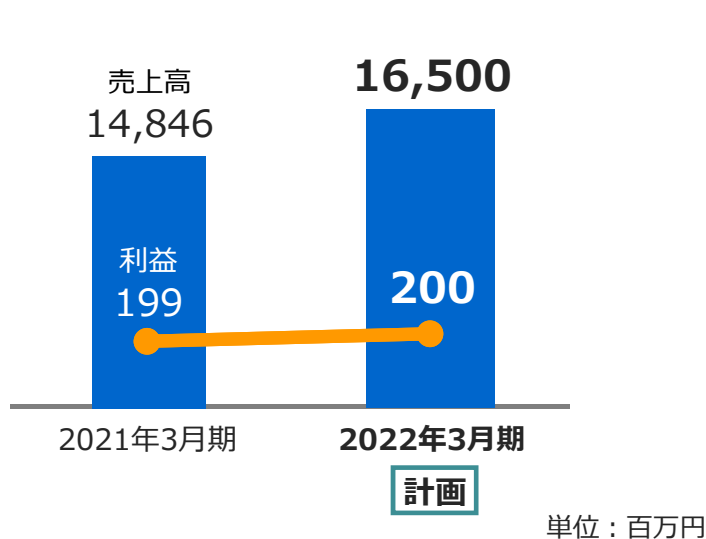
## 2. 2022年3月期 通期業績予想の概要

### (2) セグメント別の状況

【売上高】 回復傾向（半導体不足の影響は一部継続）

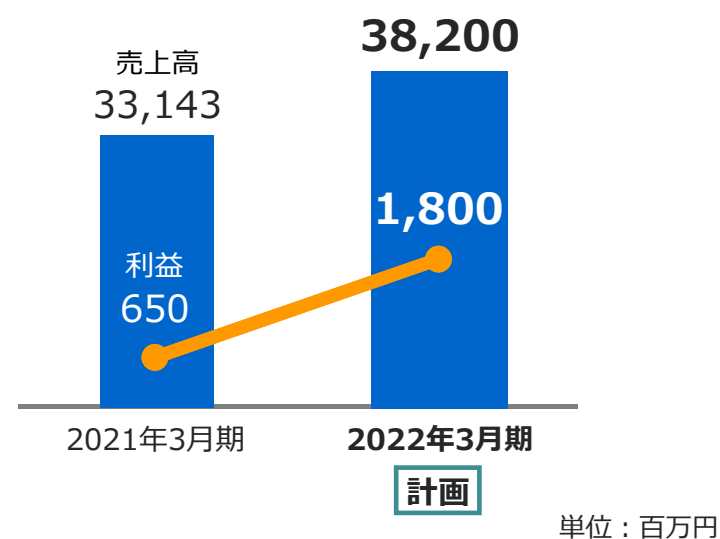
【利益】 原材料価格上昇の影響大

#### <塗料関連事業>



	2021年 3月期	2022年 3月期	増減率
売上高	14,846	<b>16,500</b>	+11.1%
セグメント利益	199	<b>200</b>	+0.1%
(利益率)	(1.3%)	<b>(1.2%)</b>	

#### <自動車製品関連事業>

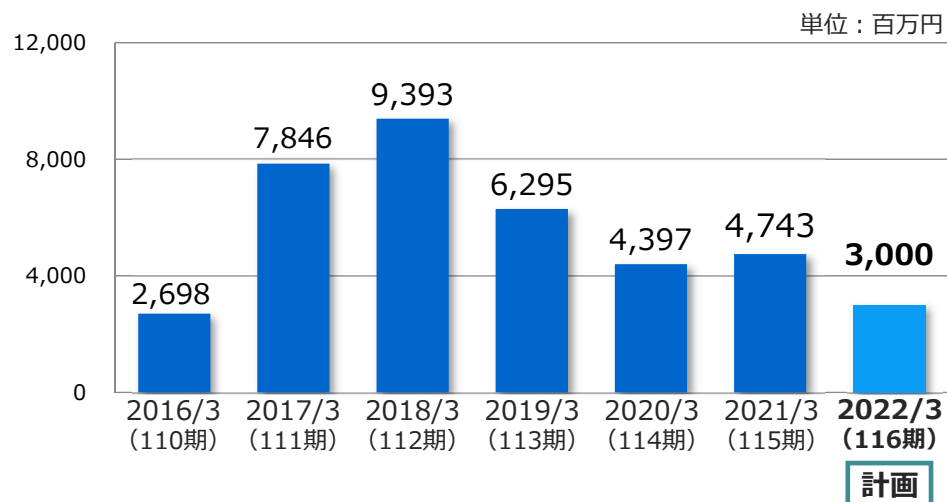


	2021年 3月期	2022年 3月期	増減率
売上高	33,143	<b>38,200</b>	+15.3%
セグメント利益	650	<b>1,800</b>	+176.6%
(利益率)	(2.0%)	<b>(4.7%)</b>	

## 2. 2022年3月期 通期業績予想の概要

### (3) 設備投資・減価償却費

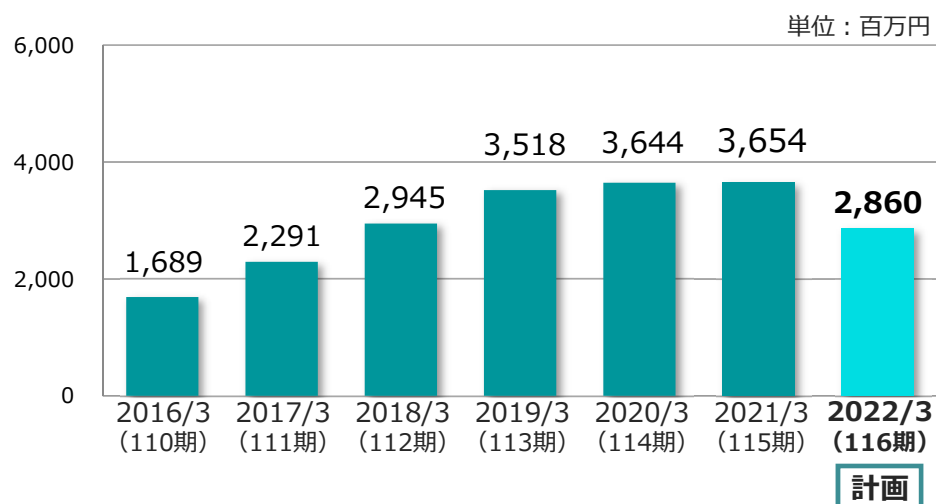
#### ①設備投資（工事ベース）



#### 【設備投資】

- ・大型投資は減少
- ・当面の新規投資は受注動向等で判断

#### ②減価償却費

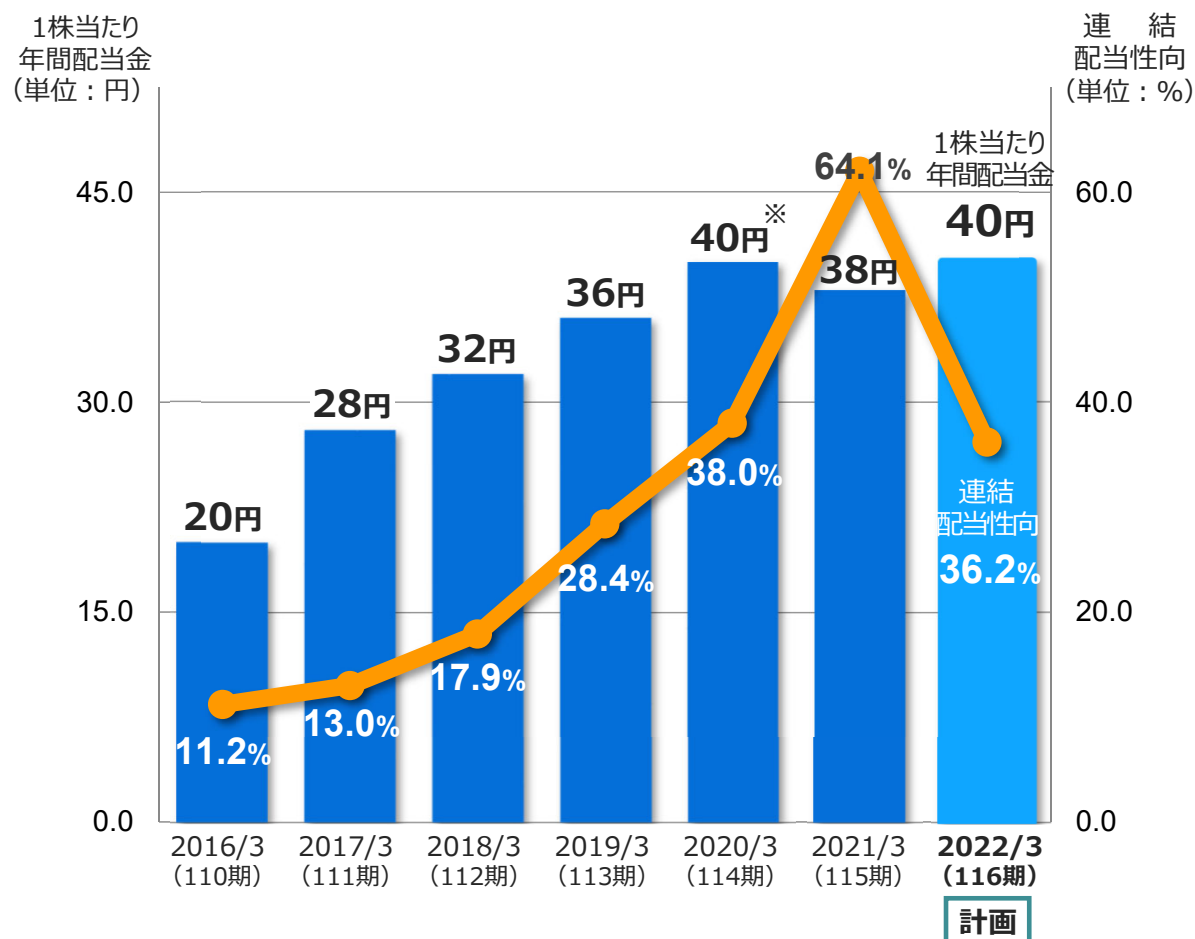


#### 【減価償却費】

- ・2021/3期は、前期並み
- ・2022/3期は収益認識基準適用の影響あり（売上高・費用ともに減）
- ・今後、当面は逡減傾向

## 2. 2022年3月期 通期業績予想の概要

### (4) 配当金



※2020/3期 (114期) は創立90周年記念配当2円を含む (普通配当38円)

#### 【方針】

安定配当を基本に  
配当性向を考慮

#### 【2022年3月期】

年間配当 40円  
(2円増配)



# 3. 当社の事業概要

## (1) 沿革①

### ■ 創業～塗料事業の歩み

- 1929年 日本特殊塗料合資会社として、航空機用塗料の開発からスタート
- 1930年 「T・T（テー・テー）金属用塗料」を開発
- 1951年 セメント瓦用塗料「スレコート」を開発
- 1966年 屋根用塗膜防水材料「プルーフロン」の開発を皮切りに建築市場に参入
- 1973年 塗り床材「ユータック」を開発
- 1975年 航空機用「ポリウレタン塗料」が日本航空ジャンボ機に採用される
- 1983年 超高弾性壁面防水化粧材「ハイプルーフ」の開発で技術のニツクを印象づけた
- 1995年 「スカイハロー・トップコートFLV」を開発
- 1999年 「スカイハローE」H- II ロケットに採用
- 2001年 屋根用遮熱塗料「パラサーモ」を開発
- 2011年 光触媒塗料と同等の超低汚染性の機能を持つ「シルビアセラティ」を開発
- 2012年 有機無機ハイブリッド系塗り床材「ユータックコンプリート」を開発
- 2013年 風力発電ブレード用「ウインドハロートップコートF」を開発
- 2014年 環境対応型建築用薄膜防水材料「プルーフロンエコDX」を開発
- 2016年 ガラス用遮熱塗料「NTサーモバランスNEO 1」を開発
- 2017年 学校環境衛生基準等を満足する「プールエースECO」を開発



## 3. 当社の事業概要

### (1) 沿革②

#### ■ 自動車製品事業への参入と防音材技術の確立

- 1953年 自動車用防音・防錆塗料「ニットク・アンダーシール」を開発
- 1964年 自動車用制振材「メルシート」を上市、防音材メーカーとして歩み始める
- 1967年 防音材メーカー、マテック・ホールディング社（現オートニウム社）と技術提携
- 1968年 吸音材「タカ」を開発
- 1969年 遮音材「タカポール」の開発により、自動車用防音材分野での基礎技術を確立
- 1970年 自動車用遮音材「ダッシュインシュレーター」を開発
- 1978年 自動車用吸音材「ボンネットライナー」を開発
- 1988年 エムス・トーゴー社（現エフテック社）とクロスライセンス契約
- 2001年 超軽量防音システム部品「RIETER ULTRA LIGHT™」※の開発により、従来比30～60%の軽量化を実現
- 2003年 自動車用吸音材「ホイールハウスライナー」を開発
- 2010年 自動車用吸・遮音材「フロアカーペット」・「フロアアンダーカバー」を開発
- 2016年 フロアカーペットのバリエーションに「I F P」工法、「RIETER ULTRA LIGHT™」※のバリエーションに「H A」技術を導入



※「RIETER ULTRA LIGHT™」は、Autoneum Management AG の登録商標です

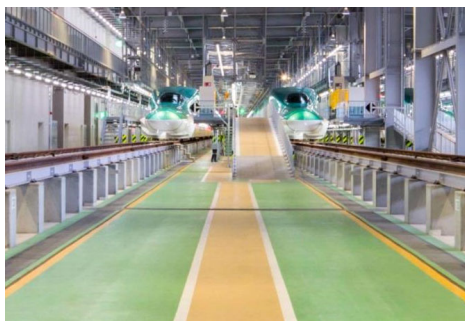
# 3. 当社の事業概要

## (2) 塗料関連事業①

### ■ 建築・構築物用塗料

内外装材をはじめ、塗り床材・舗装材、防水材、屋根用塗料等様々な機能性塗料の開発、販売を行なっています。

遮熱塗料は、屋根、外壁、屋上・バルコニー、ガラス面用など建物全般を遮熱し、高い省エネ・節電効果を発揮します。



塗り床材「ユータックE-40」  
(北海道新幹線函館総合車両基地)



屋根用防水材「タフシール防水工法」  
(坂の上の雲ミュージアム)



屋根用遮熱塗料「パラサーモン」  
(サヌキ畜産加工協同組合)

### ■ 航空機用塗料

苛酷な環境から航空機の機体を保護する航空機用塗料「スカイハロー」は、民間航空会社をはじめ、日本国政府専用機や各航空会社の特別塗装機、さらには宇宙航空研究開発機構の月周回衛星「かぐや」にも採用されています。



AIR DO 特別塗装機 ベア・ドゥ 北海道JET



宇宙航空研究開発機構  
「月周回衛星かぐや」

# 3. 当社の事業概要

## (2) 塗料関連事業②

### ■ 請負工事（集合住宅大規模改修工事）

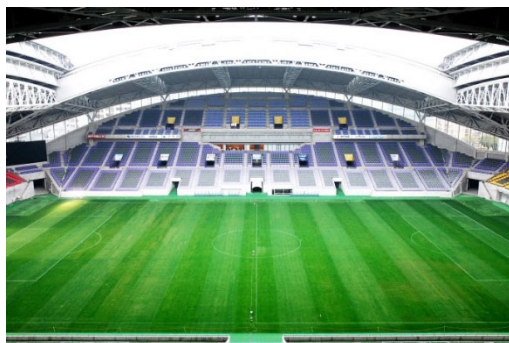
子会社 ニットクメンテ(株)において、マンション等の大規模改修、修繕工事を請負

#### ＜ ニットクメンテ株式会社 ＞

- ・事業所 東京・大阪・名古屋 他（全国8ヶ所）
- ・売上高 約50億円（2021年3月期）
- ・株主 当社、積水アクアシステム(株)



### ■ 建築・構築物用防音材



制振材「イーディケルM-3500SS」が採用された「ノエビアスタジアム神戸」(ドーム屋根部分)

### ■ 鉄道車両用防音材



九州新幹線N700系「さくら」

### ■ DIY用製品



DIY用製品

# 3. 当社の事業概要

## (3) 自動車製品関連事業①

### ■ 吸音材・遮音材

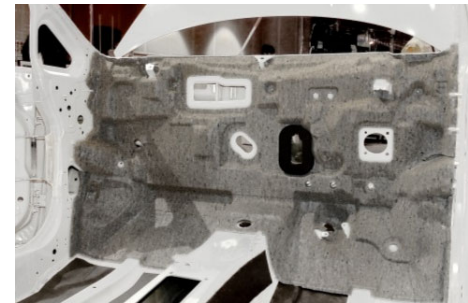
※「RIETER ULTRA LIGHT™」は Autoneum Management AG の登録商標です



自動車用吸音材「フードインシュレーター」



自動車用吸音材「トランスミッションインシュレーター」



超軽量防音システム部品「RIETER ULTRA LIGHT™」



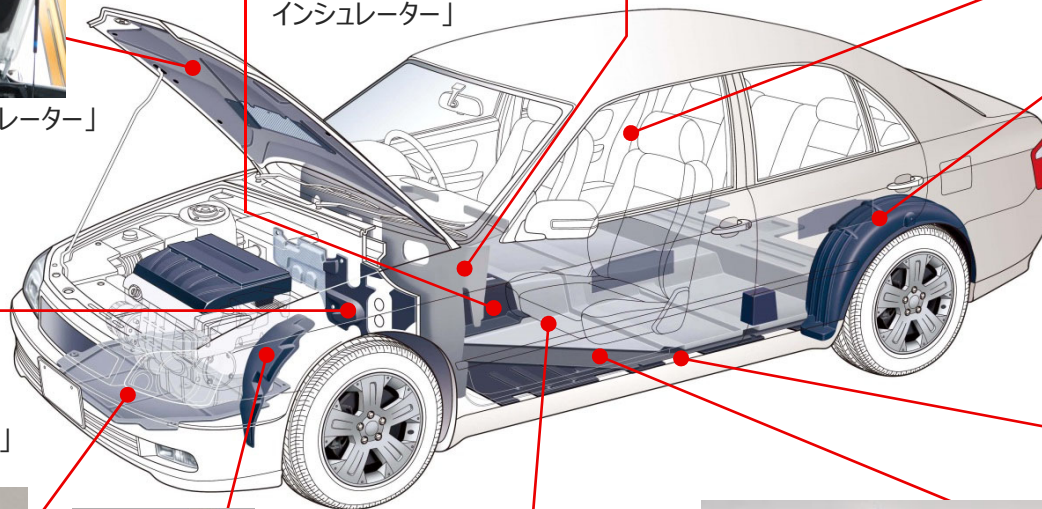
自動車用吸音材「吸音ダクト」



自動車用吸音材「リア吸音ホイールハウ斯拉イナー」



自動車用吸・遮音材「ダッシュアウターインシュレーター」



自動車用吸音材「吸音フロアアンダーカバー」



自動車用吸音材「吸音エンジンアンダーカバー」



自動車用吸音材「フロント吸音ホイールハウ斯拉イナー」



自動車用吸音材「ヒートインシュレーター」

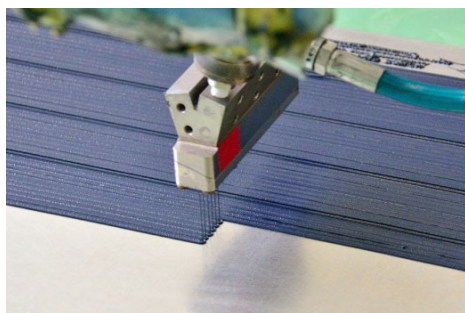


自動車用吸・遮音材「フロアカーペット」

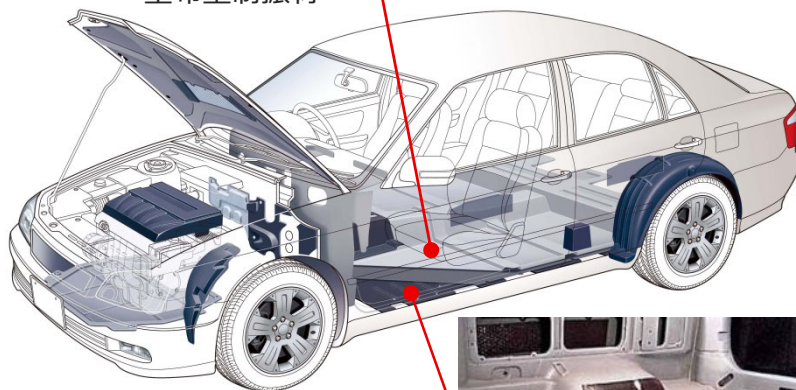
# 3. 当社の事業概要

## (3) 自動車製品関連事業②

### ■ 制振材・防錆材



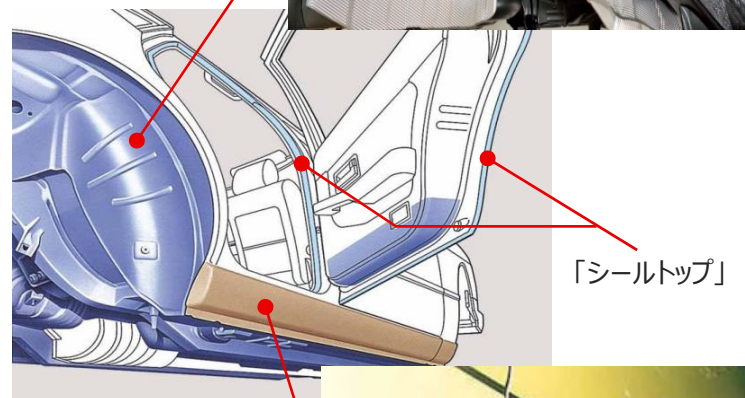
塗布型制振材



自動車用制振材「メルシート」

### 自動車用防錆材・シーラントの 代表的な塗装部位

「NTガードコート」  
(PVC系)



「シールトップ」

「NTガードコート」  
(PVC系・ウレタン系)



## 3. 当社の事業概要

### (3) 自動車製品関連事業③

#### ■ ご採用いただいている自動車メーカー












#### <全国内自動車メーカーに納入>

- いすゞ自動車株式会社
  - スズキ株式会社
  - 株式会社SUBARU
  - ダイハツ九州株式会社
  - ダイハツ工業株式会社
  - トヨタ自動車株式会社
  - トヨタ自動車九州株式会社
  - トヨタ自動車東日本株式会社
  - トヨタ車体株式会社
  - 日産自動車株式会社
  - 日産自動車九州株式会社
  - 日産車体株式会社
  - 日産車体九州株式会社
  - 日野自動車株式会社
  - 本田技研工業株式会社
  - マツダ株式会社
  - 三菱自動車工業株式会社
  - 三菱ふそうトラック・バス株式会社
  - UDトラック株式会社
- (50音順)

# 3. 当社の事業概要

## (4) 海外事業 (自動車製品関連事業)

### ■ グローバル展開 (Nittoku/Autoneum)

- 1967  Matec Holding AG (現:Autoneum Holding AG) と技術提携
- 1986  **UGN,Inc.**を米国に設立
- 1994  **SNC Sound Proof Co.,Ltd.** をタイに設立
- 2003  日特固 (広州) 防音配件有限公司 (**ANG**) を中国に設立
- 2004  天津日特固防音配件有限公司 (**TAN**) を中国に設立
- 2005  **SRN Sound Proof Co.,Ltd.** をタイに設立
- 2008  Rieter Nittoku Automotive Sound Proof Products India Pvt.Ltd. (現:Autoneum Nittoku Sound Proof Products India Pvt.Ltd.) (**ANIS**) をインドに設立
- 2010  武漢日特固防音配件有限公司 (**WNA**) を中国に設立
- 2012  **PT.TUFFINDO NITTOKU AUTONEUM (TNA)** をインドネシアに設立
- 2013  **UGN,Inc.**がメキシコに工場を新設 (2017年に工場移転)
- 2019  武漢日特固汽车零部件有限公司 を中国に設立 (**WNA** 子会社)



▲ スイス Unikeller 研究所(当時)



▲ United Globe Nippon, Inc. (当時)



▲ SNCサウンドブルーフ



▲ 日特固(広州)防音配件有限公司(ANG)



▲ 天津日特固防音配件有限公司(TAN)



▲ サミット・リエタ・ニットク  
サウンドブルーフ (SRN)



▲ オートニウム・ニットク・サウンドブルーフ  
・プロダクツ・インド(ANIS)



▲ 武漢日特固防音配件有限公司(WNA)



▲ PTタフインド・ニットク・オートニウム  
(TNA)



▲ UGN Mexico



# 3. 当社の事業概要

## ■ グローバル・ネットワーク (現状)



連結子会社

武漢日特固防音配件有限公司 (中国)  
武漢日特固汽車零部件有限公司 ( " )



持分法適用会社

天津日特固防音配件有限公司 (中国)

持分法適用会社



UGN,Inc.本社 (アメリカ)



持分法適用会社

日特固(広州)防音配件有限公司 (中国)



連結子会社

PT. TUFFINDO NITTOKU AUTONEUM (インドネシア)



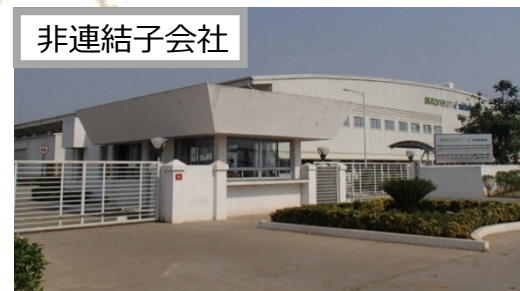
持分法適用会社

SNC Sound Proof Co.,Ltd. (タイ)



持分法適用会社

SRN Sound Proof Co.,Ltd. (タイ)



非連結子会社

Autoneum Nittoku Sound Proof Products India Pvt.Ltd. (インド)

## 3. 当社の事業概要

### ■ グローバル パートナー

#### < Autoneum (オートニウム) 社 >

##### ① Autoneumとの技術提携関係 (防音部品)

##### 1967年以来、50年を超えるアライアンス

- グローバル戦略
- 音響解析技術・評価技術・製品開発の共有
- 北米はじめアジア各国で当社と J V を設立

##### ② Autoneum社の概要

- ・上場企業 (SIX Swiss Exchange)
- ・純売上高 1740.6 million CHF (約2,100億円)
- ・スイス本社、グローバルに53拠点、進出先24カ国
- ・従業員数 (グループ全体) 約12,800名
- ・世界でも有数の音響解析/評価技術と熱解析技術を有し  
自動車音響製品および耐熱対策の分野で  
世界の自動車産業に製品等を供給する防音材トップメーカー

### 3. 当社の事業概要

#### ■ グローバル パートナー

#### < EMS-EFTEC社 >

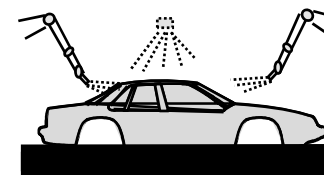
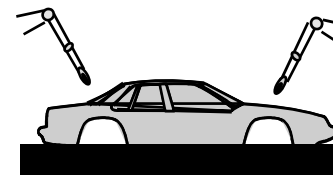


#### ①EMS-EFTEC社の概要

- ・EMS-CHEMIE HOLDING AG の子会社 EMSグループ
- ・EMSグループ「High Performance Polymers」事業  
売上高 約 1900 million CHF\*（約2,300億円） \*EFTEC社含む事業全体
- ・スイス本社、欧州中心に 北・中南米、中国、タイ、インド 等へ進出

#### ②EMS-EFTEC社の製品群

- ・板金、組立、塗装の各工程用の  
接着剤、塗材、シーリング材、制振材



# 4. 今後の成長戦略

## (1) 塗料関連事業

### ■ 事業環境

- ①国内の塗料市場は成熟、競争激化  
(+ 新型コロナウイルスの感染拡大の影響)
- ②労働人口の長期的な減少が継続し、  
塗装工や防水工の人材不足が恒常化

### ■ 成長戦略

- ①既存製品のシェア拡大
  - ・防水材等の主力製品の拡販
  - ・日特会、ニットク・アメニティシステム会のネットワークを活用（販売店内シェア拡大）



塗り床材「ユータックE-30N」採用例

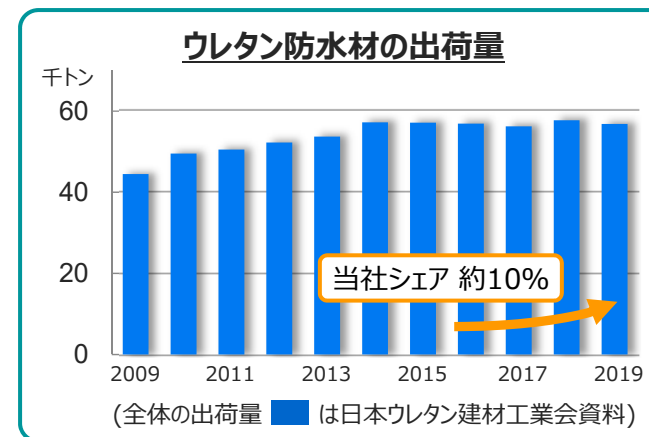


屋根用遮熱・断熱塗料「パラサーモフッ素」採用例



建築用塗膜防水材「ブルーフレコ」採用例

建築用塗膜防水材「ブルーフレコDX」採用例



# 4. 今後の成長戦略

## (1) 塗料関連事業

### ■ 成長戦略

#### ② 新規顧客開拓・海外展開

- ・販売店・施工店の新規開拓
- ・中国、東南アジア地域を中心とした海外への販売展開

#### ③ 新製品の拡販、新規開発

- ・土木分野（床版防水材・端部防水材）、サイディング用塗料、超撥水塗料、自動車アフターマーケット向け塗料等の新製品の拡販
- ・塗装工程削減、環境対応型等付加価値が高い製品の開発

#### ④ 収益力改善

- ・原価・工程改善、経費低減の推進

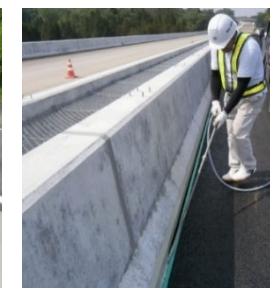
	既存顧客	新規顧客
既存製品	戦略① シェア 拡大	戦略② 新規開拓 海外展開
新規製品	戦略③ 土木分野 サイディング用塗料 超撥水塗料 etc.	



フェイスシールド・メガネレンズ用くもり止め液「デフォグマジック」



【新製品】土木分野「床版防水材」



土木分野「端部防水材」

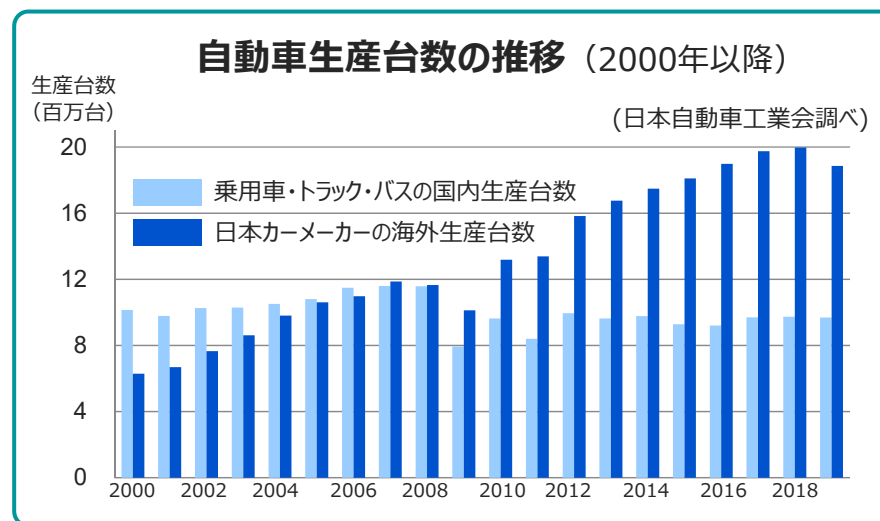
## 4. 今後の成長戦略

### (2) 自動車製品関連事業

#### ■ 事業環境

##### ① 自動車市場の足元の動向

生産台数は回復途上にあるが  
新型コロナウイルス感染拡大の  
影響に加え、半導体不足により  
先行きは不透明



##### ② 生産体制の変化

国内カーメーカーの生産の一部は海外へシフト、グローバルで  
最適な生産体制の構築が必要

→ サプライチェーンの強化・安定化が急務  
(サステナビリティ推進も重要な要素に)



##### ③ 変革期を迎える自動車業界

環境規制の強化 (燃費・排気ガス・車外騒音)、  
技術革新の進展 (電動化・情報化・知能化・モビリティサービス化)  
により、自動車産業は100年に一度の大変革期

→ 製品ニーズは、変化・多様化



# 4. 今後の成長戦略

## ■ 成長戦略

### ①収益力の改善・強化

- ・生産工程・工法の見直し、原材料価格の低減を推進
- ・デジタル技術の活用による生産性向上



愛知工場生産設備

### ②グローバルな部品生産体制の拡充・最適化

- ・グローバルパートナー・海外 J Vとの戦略共有・連携強化  
(営業、原料調達、生産技術、研究開発等、総合的な戦略共有・連携強化)
- ・海外工場の新設、拡張

2017年	子会社	WNA (中国・武漢)	第2工場 本格稼働開始
2018年	関連会社	UGN (北米)	メキシコ新工場 (移転) 稼働開始
2019年	関連会社	TAN (中国・天津)	第2工場 本格稼働開始
2021年	子会社	WNA (中国・武漢)	第3工場 (WNA子会社) 稼働開始



WNA子会社 第3工場



UGN メキシコ新工場

# 4. 今後の成長戦略

## ■ 成長戦略

### ③防音部品・塗材ニーズの変化・多様化に対応

・環境対応車及び環境規制に対応した商品の開発

**防音性能 + 軽量 + 省エネ・環境対応**

・「電動車」・「自動運転車」に求められる新たな「内装」  
( 移動するための空間 → くつろぐための空間 )

**防音性能 + デザイン性 +  $\alpha$  (新機能)**

・高い研究開発力、技術革新により  
個別部品の機能適正化と競争力強化 (差別化)  
車両全体の最適な防音システムの分析・提案

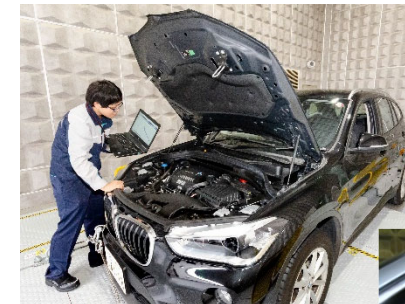
**防音性能 + 研究開発力・技術力・提案力  
+ 低コスト (高い競争力)**



自動車用吸・遮音材  
「フロアカーペット」



自動車用吸・遮音材  
「フロアアンダーカバー」



音響解析のための実車テスト  
ベンチ (スムーズ&ラフ面)



ISOCELL : 防音部品の音響透過  
損失測定装置



# 4. 今後の成長戦略

## (3) 事業・経営基盤の充実化

### ■ 経営戦略



#### ① デジタル技術活用による効率化推進

・デジタル技術活用により、各部門で効率化・合理化を推進（**DX推進**）し、生産性向上

#### ② 持続的な成長に向けた事業基盤の充実

・安全・品質・環境への取組み、CSRやSDGs等の社会課題を含む**ESG**への取組みを深化



優れた遮熱効果で省エネ対策や環境対策にも有効な屋根用遮熱塗料「パラサーモシリーズ」

### マテリアルリサイクル推進（CE推進）

自動車製品事業において、回収したユニフォーム等の古衣料を反毛化し、自動車用防音材に加工・製品化



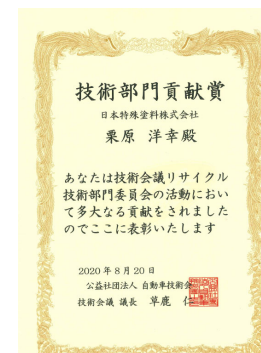
防音材リサイクルライン



リサイクル繊維を利用した生産設備



一部はユニクロ（ファーストリテイリング社）の古衣料を防音材へリサイクル  
（写真はユニクロホームページ）



当社の古衣料リサイクル技術が(公社)自動車技術会の「技術部門貢献賞」を受賞（2019年度）

## ＜参考資料＞

1. 会社概要
2. 主要な経営指標の推移

# 1. 会社概要

## (1) 会社概要

- 商号 日本特殊塗料株式会社  
(NIHON TOKUSHU TORYO CO., LTD.)
- 本社 東京都北区王子3丁目23番2号
- 創業 1929 (昭和4) 年6月1日
- 資本金 47億5,308万円
- 発行済株式数 23,611,200株
- 連結従業員数 1,287名 (2021年3月末時点)  
※臨時雇用者を除く

# 1. 会社概要

## (2) 役員・執行役員 <監査役設置会社>

※2021年6月24日異動後

### ■ 取締役

取締役会長 最高経営責任者(CEO)	野島雅寛
取締役副会長 最高財務責任者(CFO)	田谷 純
代表取締役社長 最高執行責任者(COO)	遠田比呂志
取締役	山口久弥
取締役	安井芳彦
取締役	土井義彦
取締役	鈴木裕史
取締役	中村 信
社外取締役	奈良道博
社外取締役	矢部耕三

### ■ 監査役

常勤監査役	川名宏一
社外監査役	高橋善樹
社外監査役	松藤 斉

### ■ 執行役員

執行役員	西岡寿美
執行役員	南雲三智夫
執行役員	栗原洋幸
執行役員	福富雄二
執行役員	力武洋介

# 1. 会社概要

## (3) 社是・経営の基本理念

### 社是

## 創意工夫

### 経営の基本理念

卓越した技術と製品により社会に貢献する。

株主の利益を尊重し、社員の人格を大切にする。

環境と共生し、国際標準に準拠しつつ、  
永遠の発展を目指す。

# 1. 会社概要

## (4) 経営の基本方針・長期ビジョン

### 経営の基本方針

創意工夫を社是とし、独自の技術と製品をもって  
顧客の要請と信頼にこたえる。

世界に活躍する企業として総合開発力を結集し、  
新製品・新需要の開発に挑戦する。

人材の育成・雇用をはかるとともに、一切の無駄を省き、  
高生産性・高収益を追求する。

### 長期ビジョン

塗料と防音材を柱に、快適環境を創造し、  
社会に貢献する会社でありたい。

世界中から必要とされ、信頼される“ **nittoku** ”へ  
さらに飛躍させたい。

働きに応じて評価され、働き甲斐のある  
活力に満ちた会社を創り出そう。

# 1. 会社概要

## (5) 国内主要事業所

### ■ 本社・研究開発拠点



本社



開発センター



塗料技術棟



### ■ 国内6工場



平塚工場



静岡工場



愛知工場



広島工場



九州工場



東九州工場

## 2. 主要な経営指標（連結）の推移

	2012年 3月期	2013年 3月期	2014年 3月期	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期	2018年 3月期	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期
売上高 (百万円)	32,238	32,781	39,391	39,570	43,812	47,998	57,260	59,417	57,191	48,004
営業利益 (百万円)	895	461	1,303	1,629	2,961	3,162	3,286	2,973	2,827	858
経常利益 (百万円)	1,647	1,805	3,328	4,036	5,533	6,741	5,881	4,734	4,303	2,403
当期純利益 (百万円)	1,389	1,543	2,712	3,029	3,966	4,778	3,960	2,795	2,318	1,301
1株当たり 当期純利益 (円)	62.85	69.80	122.69	137.00	179.37	216.11	179.12	126.74	105.34	59.27
総資産 (百万円)	38,024	38,762	47,960	53,428	56,894	66,987	76,655	73,572	72,067	75,502
純資産 (百万円)	18,879	21,268	26,794	31,385	34,235	39,539	43,674	43,958	45,062	47,154
配当金 (円)	10.0	10.0	12.0	12.0	20.0	28.0	32.0	36.0	40.0	38.0
配当性向 (%)	15.9	14.3	9.8	8.8	11.2	13.0	17.9	28.4	38.0	64.1
自己資本比率 (%)	48.3	53.4	53.6	56.2	57.1	54.9	52.5	54.7	56.8	56.4
ROE (%)	7.7	7.9	11.7	10.9	12.7	13.8	10.3	6.9	5.7	3.1



## 【 I Rに関するお問合せ先】

日本特殊塗料株式会社 業務本部 財務部  
( TEL : 03 - 3913 - 6134 )

本資料は投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における業績予想および将来の予測等に関する記述は、資料作成時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

なお、本資料の内容は今後予告なしに変更することがあります。